

**【岩手県大船渡市】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	岩手県大船渡市
担当課名	教育委員会事務局学校教育課
電話番号	0192-27-3111

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	32,784人	部活動数	35部活
公立中学校数	4校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	722人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定予定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

当市の学校部活動については、少子化の影響と部活動の任意加入化、選択肢の多様化に伴い、部員数が減少し、学校によっては通常の練習や大会参加にかかるチーム編成に支障をきたしています。小規模校においては選択できる部活動が限られており、総合文化部以外の文化部が選択できない学校があります。

在学する学校に希望する部活動の種目がないことから、部活動に所属しない生徒が増加しています。

自校にやりたい部活動がなかったり、チーム編成ができないことを理由として学区外通学を希望する生徒も一定数います。

今後、生徒数は年々減少していく見込みであり、現状の学校を単位とした部活動の維持はますます困難となります。

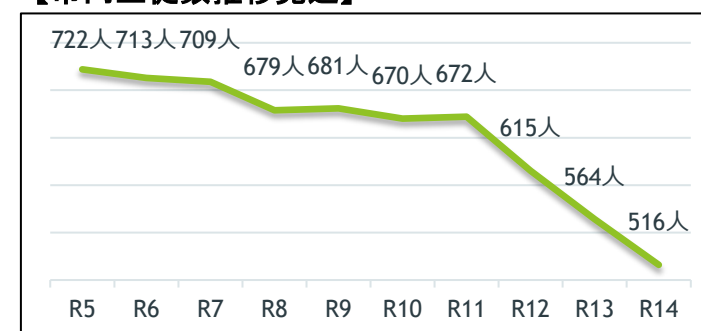
また、令和4年度に市立学校職員を対象として実施したアンケートでは、競技・指導経験のない部活動の指導にあたっている顧問が6割を超えており、休日の学校部活動が地域移行された場合に引き続き指導にあたりたいと回答した教員は2割にとどまっています。

こうしたことから、生徒が望む専門的な指導を受けながら、スポーツ・文化芸術活動を継続しておこなえるよう、従来の学校を単位とした学校部活動から、地域単位に移行していく必要がありますが、当市においては受け皿となる団体が少ないことから、受け皿となる団体の整備と指導者の確保が課題となっています。

【令和5年度生徒数及び部活動数】

学校名	生徒数	運動部	文化部
第一中学校	410人	10部	3部
大船渡中学校	124人	8部	2部
末崎中学校	68人	5部	1部
東朋中学校	120人	5部	1部

【市内生徒数推移見込】

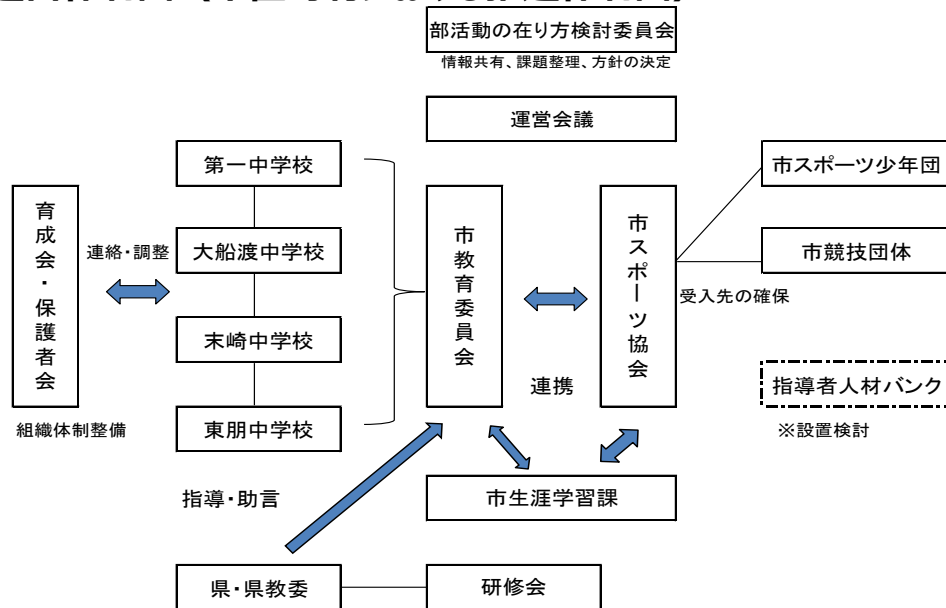


現小学1年生～中学3年生は実数を使用。現未就学児については、市内出生者数に直近の市内学校への就学率を掛けた数値を用い、各年度の学年を繰り上げて算定。

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会（学校教育課）

- ・実証事業の内容の検討
- ・育成会・保護者会との連絡調整、地域指導者・各中学校への協力依頼への協力依頼
- ・検討委員会での情報共有・成果と課題の整理、次年度以降の方針の決定

● 首長部局（生涯学習課）

- ・検討委員会での情報共有・成果と課題の整理
- ・市教育委員会及び市スポーツ協会との連携

年間の事業スケジュール

- ・6月 実証事業にかかる協力依頼（地域指導者、育成会・保護者会、学校）
第1回部活動の在り方に関する検討委員会の開催（実証事業の内容説明）
- ・7月 実証事業の周知、参加者の募集
地域スポーツクラブの活動開始（陸上）
- ・8月 教員の兼職兼業手続き通知
地域スポーツクラブの活動開始（バドミントン、バレーボール）
- ・10月 第2回部活動の在り方に関する検討委員会の開催（実証事業の進捗状況の報告ほか）
- ・12月 第3回部活動の在り方に関する検討委員会の開催（地域移行の方針について協議）
- ・1月 アンケート調査の実施（実証事業の参加生徒及び保護者）
- ・2月 指導者向け研修会の開催
第4回部活動の在り方に関する検討委員会の開催（実証事業の実績報告）

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

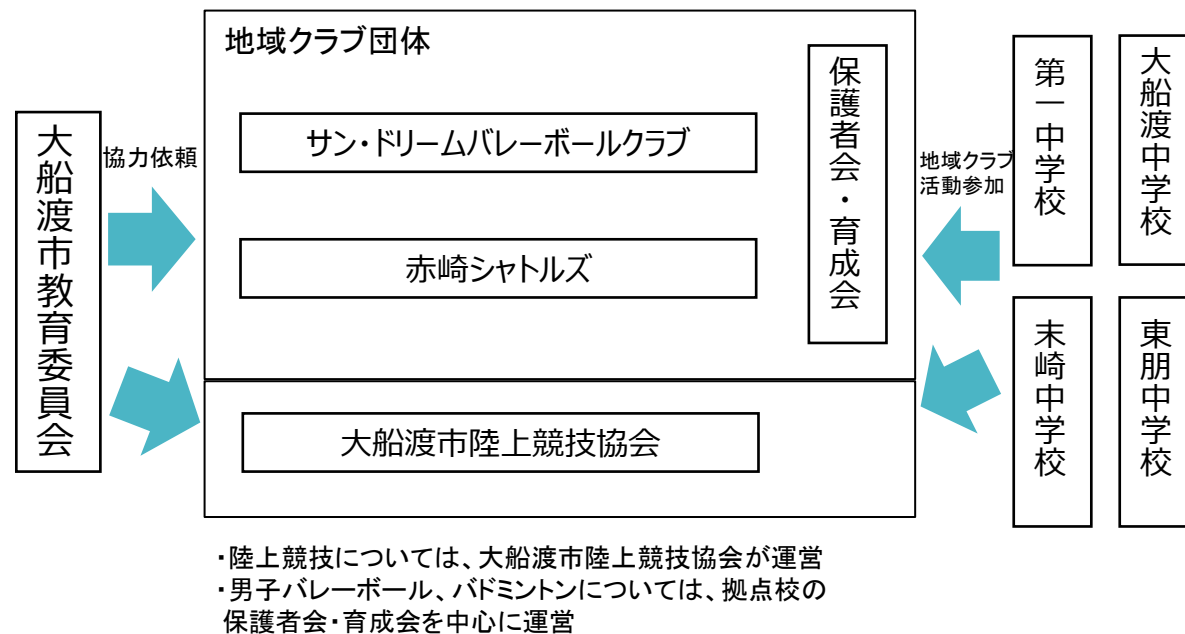
拠点校数	地域クラブ活動に取り組んだ数	地域クラブ活動に取り組んだ種目
2 校	3 種目	陸上競技、バドミントン、男子バレーボール

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	第一中学校、東朋中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	2 部活
地域クラブ活動で実施した種目	男子バレーボール（第一中学校） バドミントン（東朋中学校）
運営主体名	大船渡市教育委員会
運営類型	市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
1 か月あたりの平均的な活動回数	男子バレーボール：月 6 回程度 バドミントン：月 3 回程度
指導者の主な属性	スポーツ少年団、地域の指導者
活動場所	拠点校
主な移動手段	保護者による送迎、徒歩・自転車
1 人あたりの参加会費等（年額）	男子バレーボール：12,000円 バドミントン：12,000円
1 人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒 1 人あたり：800円/年 指導者 1 人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・市スポーツ担当部署や市スポーツ協会との連携
- ・指導者の確保や活動場所の調整
- ・活動団体の体制の整備

取組の成果

- ・市スポーツ協会から地域指導者の情報を得て、実証事業の協力依頼を行うことができた。
- ・各運営団体において、LINE等を活用した参加者の連絡網の作成、練習日の設定、会費の設定と徴収、スポーツ安全保険などの保険加入手続きを行うなど、運営体制を整備することができた。
- ・バドミントンでは、休日に保護者会で当番制により生徒の見守りを実施し、学校部活動の顧問がつかない体制をとることができた。
- ・陸上競技は運営団体が練習場所を確保し実施することができた。

特に工夫した事項

- ・各運営団体に、会費の設定と徴収、スポーツ安全保険などの保険加入手続きを行うことなどを依頼し、地域移行後の体制整備に努めた。
- ・参加者の募集にあたっては、生徒が選択しやすいよう3つの種目をまとめて市教育委員会で各中学校に募集チラシを配付した。また、申込方法は、学校への申込書の提出のほか、オンラインでも申込ができるよう工夫した。

今後の課題と対応方針

- ・令和4年度に小中学生を対象として実施したアンケートでは、学校部活動と子ども達が希望している種目が一致していない状況が窺えたことから、学校部活動にない種目の設立についても検討していく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

- ・専門の知識・技能を有する指導者を複数人配置する。
- ・引き続き指導を希望する教員の兼職兼業の体制を整備する。

取組の成果

- ・各種目において、2人以上の指導者を配置することができた。
- ・男子バレーボールについては、拠点校の部活動顧問2名が兼職兼業を希望したことから、在校時間の把握を行ったうえで、市教育委員会が兼職兼業の許可を行い、実証事業の指導者として依頼を行うことができた。
- ・実証事業の指導者を対象とした研修会を開催し、ハラスメントに関する知識の習得など指導者の資質の向上を図ることができた。

特に工夫した事項

- ・市教育委員会で兼職兼業の許可基準を整理した。
- ・指導者に協力依頼した際に、現行の体制で指導可能な人数について事前に確認を行い、定員を超えた場合の指導体制についても検討していただいた。

今後の課題と対応方針

- ・種目により指導者の確保が困難な部活動もあることから、市スポーツ協会や各種競技団体の協力を得ながら指導者の確保に努めていく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・市スポーツ協会や加盟競技団体、スポーツ少年団等と連携し、受け皿の確保に取り組む。

取組の成果

- ・当市に設置した検討委員会において、スポーツ・文化芸術関係機関、地域指導者、市スポーツ担当部署、学校関係者と情報共有を図ることができた。
- ・陸上競技については大船渡市陸上競技協会と、男子バレーボール及びバドミントンについてはスポーツ少年団加盟団体（サン・ドリームバレーボールクラブ、赤崎シャトルズ）の協力を得て実施することができた。

特に工夫した事項

- ・検討委員会の構成員に実証事業の指導者2名と部活動指導員を加え、現状と課題の把握に努めた。

今後の課題と対応方針

- ・関係団体の役割分担を明確にし、連携を強化していく必要がある。市の方針を決定した後に、各団体に協力依頼し地域移行に向けた体制を構築していく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

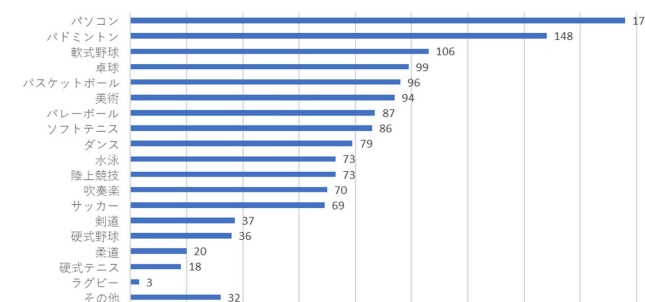
- ・市内中学校に設置されていない陸上競技について、大船渡市陸上競技協会の協力を得て、活動機会を提供する。
- ・自校にない種目に取り組める体制を整備する。

取組の成果

- ・陸上競技では、市内4校全てから参加申込があった。
- ・男子バレーボール、バドミントンともに新人チーム後に部員数が不足していたが、他校から参加申込があり、活動人数を増やすことができた。
- ・部活動引退後の3年生も活動に参加することができた。また、他校の生徒との交流であったり、バドミントンはスポーツ少年団の小学生と一緒に活動することもあり、学校以外での人間関係の構築が図られた。

特に工夫した事項

- ・令和4年度に市内の小学4年生から中学3年生までを対象として実施したアンケート調査において、運動部のなかでニーズが高かったバドミントンに触れる機会を提供することができた。
- ・学校の部活動にない種目（陸上競技）や市内で1校しかない種目（バドミントン、男子バレーボール）を選定し、市内の中学生が希望する活動に参加できるよう工夫した。



今後の課題と対応方針

- ・実証事業では、希望した内容と実際の活動内容にギャップを感じて途中で辞める生徒が何人かいたことから、次年度以降、募集の際にはあらかじめ活動内容や運営団体の方針などを確認したうえで周知を図っていく。
- ・現状の学校部活動が必ずしも児童生徒のニーズに即していないことから、関係団体と連携して受け皿の構築を図っていく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

学校部活動と活動場所・時間の調整をしながら利用する。

取組の 成果

- ・男子バレーボール、バドミントンについては、拠点校を活動場所として時間帯を調整して実施することができた。
- ・陸上競技については、高等学校を練習会場として独自に確保して活動することができた。

特に 工夫した 事項

今後の 課題と 対応方針

- ・種目により、指導者が指導できる時間帯により会場が重複することが考えられることから、学校施設を利用する場合の予約方法や学校備品を破損した場合のルールづくりを今後決める必要がある。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

地域スポーツクラブ活動の参加者募集について

大船渡市教育委員会では、休日の部活動の地域移行に向け、以下のとおり地域スポーツクラブ活動のモデル事業を実施します。専門的な指導を受けたい、学校の部活動にない種目に挑戦したい、いろいろな種目を試してみたいなど興味のある方はぜひご参加ください。

○事業内容

①陸上（大船渡市陸上競技協会主催事業に参加）

活動日：毎週日曜日 午後1時30分～午後4時
活動場所：岩手県立大船渡高等学校グラウンド（雨天の場合は市民体育館等）
指導者：大船渡市陸上競技協会
参加料：前期分1,000円（傷害保険料、消耗品費ほか） 後期分（10月～）は別途徴収予定
持ち物：タオル、飲み物等
その他：既に参加している方も連絡先確認のため申し込みをお願いします。

②バドミントン（拠点校：東朋中学校）

活動日：毎週土曜日 午後1時30分～午後4時30分
活動場所：東朋中学校体育館
指導者：赤崎チャールズ
参加料：月額1,000円（チャトル代ほか）、傷害保険料 800円（未加入の場合のみ）
持ち物：屋内用運動靴、タオル、飲み物等 ※ラケットは貸出可

③男子バレーボール（拠点校：第一中学校）

活動日：毎週土曜日 午後2時～午後5時 ※日程は変更になる場合があります。
活動場所：第一中学校体育館
指導者：サン・ドリームバレーボールクラブ
参加料：月額1,000円（傷害保険料、会場使用料、用具使用料ほか）
持ち物：屋内用運動靴、タオル、飲み物等

※裏面につづく

【地域クラブ活動参加申込書】

（フリガナ）	性 別	男・女	生年月日	平成	年	月	日
参加者氏名	中学校名	中学校	学 年	年 生			
保護者氏名	住 所	E-mail:					
電話番号							
参加種目	陸上（ ） ・ バドミントン ・ 男子バレーボール						

↑
希望する種目（長距離、ハードル、走幅跳など）

○参加対象

大船渡市立中学校（第一・大船渡・東崎・東朋）に在籍する「中学1年生～中学3年生」の希望者
※既に別の運動部活動等に所属している生徒も参加可能です。

○実施期間

令和5年8月から令和6年1月まで（地域スポーツ団体により延長となる場合があります）

○申込方法

下記のQRコードを読み取って申込フォームから入力するか、お子様の通学する学校の担任の先生などに申込書を提出してください。



<https://www.city.ofunato.iwate.lg.jp/questionnaire.php?openid=77>

○申込期限

令和5年7月28日（金）

○問い合わせ先

大船渡市教育委員会事務局学校教育課
〒022-8501 大船渡市盛岡字津野沢15番地 TEL0192-27-3111（内273）

○その他

- ・会場までの送迎は、各家庭でお願いします。
- ・申し込んだ氏名・住所等の情報は、指導にあたる地域スポーツ団体に提供します。
- ・参加料は初回の参加時にお支払いください。

部活動の地域移行とは

国では、少子化が進むなか、これまでの学校部活動を従前と同様の体制で維持することが難しくなっている現状を踏まえて「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を令和4年12月に策定し、令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間と位置付けて、休日における学校部活動の地域連携や地域クラブ活動へ段階的に地域移行することとしています。
このモデル事業は国の委託事業を活用して実施するもので、モデル事業で得られた成果や課題は、次年度以降の当市の地域移行に向けた取組に活用します。

大船渡市立中学校部活動の地域移行に関する方向性について

令和6年1月
大船渡市教育委員会

大船渡市教育委員会では、「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」等の国や県の方針を踏まえながら、少子化が進む中でも子どもたちが将来にわたリスポーツ文化活動に親しめる環境を整備するため、「大船渡市立中学校部活動の在り方に関する検討委員会」を設置して検討を進めております。

当市の中学校におきましても、部員数の減少により単独でのチーム編成ができないことや、部活動の廃部や専門外の顧問が指導にあたるなど、学校単位で生徒が望む活動を維持することが困難になっていることから、学校から地域に段階的に移行することとし、下記の「到達目標」及び「方針」を設定しました。まずは休日の部活動から段階的に地域の指導者に委ね、**遅くとも令和9年度末（令和10年3月末）には平日・休日とも学校部活動を廃止し、地域クラブ活動に移行する方向としております。**（学校部活動と地域クラブ活動の主な違いは裏面のとおりです）

＜到達目標＞

子どもたちが少子化の中でも、将来にわたり活動を継続して取り組むことができる環境を整備する

＜方針＞

以下のスケジュールにより体制の整った部活動から段階的に地域移行を進めます。

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度以降
I期	休日は段階的に地域移行				
II期	平日も段階的の地域移行				
III期					平日・休日ともに完全地域移行

【地域移行の方法について】

○既存の学校部活動

⇒地域の指導者を確保し、段階的に教員に頼らない指導体制を構築します。地域移行にあたっては、部員数や学校部活動の種目に応じて以下の3つのパターンを想定しています。

単独型	単独の学校で地域指導者と連携して運営
合同型	複数の学校を単位として、合同で地域指導者と連携して運営
拠点型	拠点となる学校で地域指導者と連携して運営

○学校部活動以外の種目

⇒教育委員会で生徒の皆様へのニーズに沿った新たな地域クラブの創設を検討するほか、既存の競技団体が行う地域クラブ活動と連携する体制を整えます。

今後、生徒の皆様、学校部活動の父母会や各種文化・スポーツ団体等、関係者の皆様と協議し協力を得ながら、地域移行を進めてまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

問い合わせ先
大船渡市教育委員会事務局
学校教育課（TEL 27-3111 内273）



【保護者への地域移行の周知チラシ】

【実証事業参加者募集チラシ】

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【陸上練習の様子】



【バドミントン練習の様子】



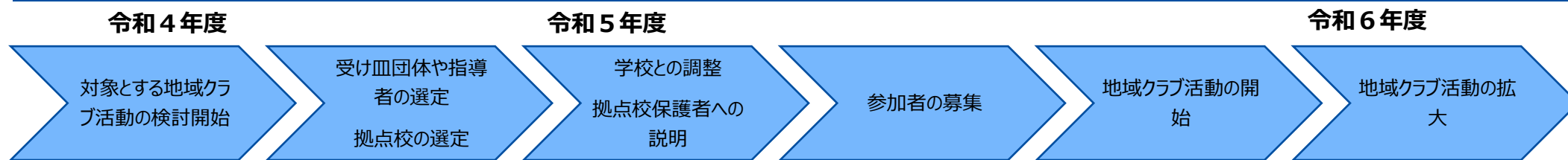
【男子バレーボール練習の様子】



【実証事業地域指導者及び部活動指導員を対象とした研修会の様子】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



教育委員会で学校単位での維持が困難となっている部活動を中心に、対象とする種目を選定した。

・実施にあたって生じた課題
当初、複数校での合同活動をいくつか予定していたが、部員が0人になったり、1校のみで部員数が充足したことから、他方が市外の学校と合同で活動することにするなど、実証事業を行えない種目が生じ、その年の部員数に左右される状況となった。

・実施内容、工夫した点 等
学校部活動にない種目（陸上競技）や、市内に1校しかない種目（男子バレーボール、バドミントン）について拠点校方式にして他校から参加できるようにした。

学校、市スポーツ協会に実証事業の説明と現状の情報共有を行った。
市で設置した部活動の在り方検討委員会において、実施する地域クラブ活動を決定した。
教育委員会で指導者及び拠点校部活動の保護者に対し、事業の説明及び協力依頼を行った。

・実施内容、工夫した点 等
検討委員会に実証事業の指導者2名を加えて、現状と課題の把握に努めた。
運営団体に参加者の連絡網の作成、練習日の設定、会費の設定と徴収、スポーツ安全保険などの保険加入手続きを行ってもらうよう依頼し、持続可能な体制の整備に努めた。

運営団体に参加者申込に必要な事項を検討してもらい、教育委員会で募集チラシを作成して各学校を通じて配付し、参加者の取りまとめを行った。

・実施にあたって生じた課題
想定した活動とのギャップから辞める生徒が複数いたことから、あらかじめ活動内容や運営団体の方針を確認し、周知を図る必要があった。

・実施内容、工夫した点 等
申込方法を学校に申込書を提出するほか、オンラインでも提出できるよう工夫した。部活動を引退した3年生が活動に参加できるようにした。

運営団体から毎月、月報及び日誌を提出してもらい、進捗管理を行った。
検討委員会において中間報告を行い、次年度の方向性について委員から意見をいただいた。
参加者生徒及び保護者にアンケートを実施し、課題把握に努めた。

・次年度の方向
原則として全学校部活動を対象に実証事業を実施し、令和7年度末の休日の地域移行に向けた体制を整備する。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

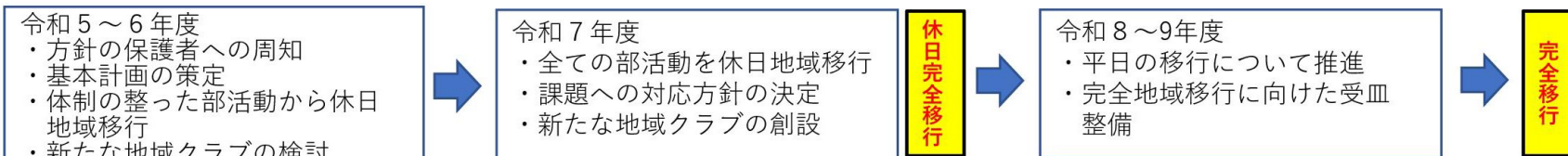
令和6年度以降の大船渡市立中学校部活動の地域移行の方針

令和5年12月



〈到達目標〉子どもたちが少子化の中でも、将来にわたり活動を継続して取り組むことができる環境を整備する

- 〈方針〉Ⅰ期 令和7年度末までに休日は地域クラブ活動に完全移行
Ⅱ期 令和9年度末までに平日も地域クラブ活動に段階的に移行
Ⅲ期 令和10年度以降は平日・休日ともに完全地域移行



1. これまでの大船渡市の中学生のスポーツ・文化活動

中学校
学校部活動
スポーツ少年団、
保護者会、育成会

地域の指導者によるスポーツ・
文化活動
陸上教室、柔道道場、合唱クラブ等

民間クラブ
サッカークラブチーム
野球リトルシニア 等

大船渡市立中学校部活動の在り方に関する検討委員会

国、県による地域クラブ活動の在り方のガイドライン等

2. 休日の地域クラブ活動・地域連携部活動へ移行

- (1) 令和7年度末までに休日は地域クラブ活動に移行する
(2) 体制の整った種目から平日も進めていく

★地域クラブ活動→教員に頼らない指導体制を構築する

単独型	○単独の学校で地域指導者※1と連携して運営 ◇学校単位で人数が充足しているもの
合同型	○複数の学校を単位として、合同で地域指導者と連携して運営 ◇学校単位では人数が不足又は将来的に不足が見込まれるもの
拠点型	○拠点となる学校で地域指導者と連携して運営 ◇市内に1種目のみのもの（他校から参加可）
完全型	○地域諸団体が運営 ◇受け皿となる地域諸団体が見込まれるもの

※1 保護者、スポーツ協会により斡旋された者、平日の部活動指導員

★地域連携部活動

- 学校が主体となり、部活動指導員
※2と連携して運営
◇学校単位
◎主に吹奏楽、総合文化、美術、
パソコン
※2 校長より委嘱された者

完全型では、現在の陸上や剣道等の
既存の団体のほか生徒のニーズ
に応じた新たな地域クラブを検討

3. 完全移行

- (1) 全ての学校部活動を平日・休日ともに地域クラブ活動に移行し、学校部活動は原則として廃止する

- (2) 各地域クラブによる運営または各地域クラブを統括する組織を設立して運営する

**【岩手県西和賀町】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	岩手県西和賀町
担当課名	教育委員会 生涯学習課
電話番号	0197-82-3283

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	4856人	部活動数	8部活
公立中学校数	2校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	検討委員会設置済み
公立中学校生徒数	91人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

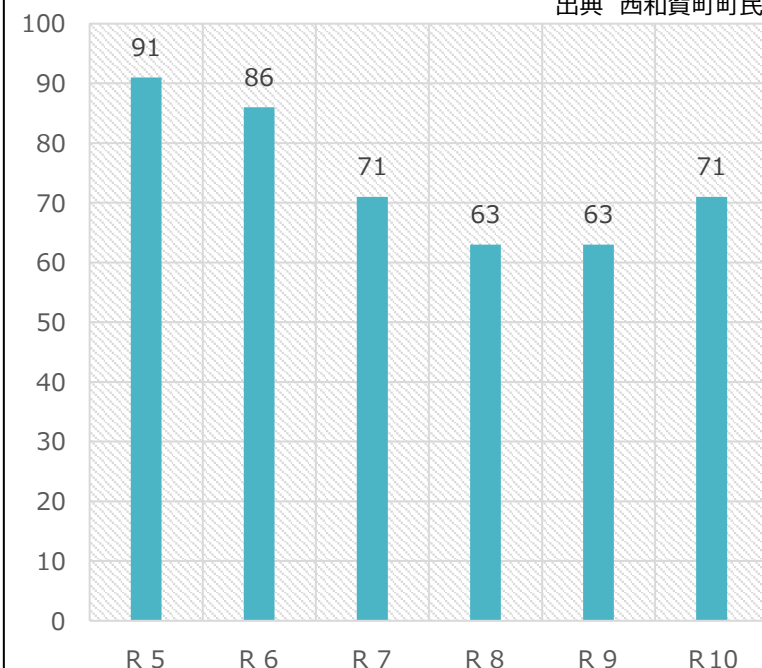
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

少子高齢化、人口減少が著しく、単独では大会に参加することが難しい部活が出てきている。現状、湯田中学校、沢内中学校の両野球部はすでに新人戦では合同チームで参加をしており、沢内中学校ソフトボール部では、町内の学校と合同チームを組むのではなく北上市と広域連携をし新人戦に参加をしている。また、地域の受け皿となりうる総合型地域スポーツクラブが西和賀町にはなく、現状町が地域スポーツクラブの受け皿となって活動している。体育協会やスポーツ少年団では受け皿になるような体力はないため総合型地域スポーツクラブの設立は急務となっている。

生徒や指導者、保護者にとっても明確に分かりやすい地域移行ではなく、平日の担当を学務課、休日の担当を生涯学習課と別れていることからワンストップで相談や依頼ができる状況ではないことから指導者、保護者、学校担当者にとっても不親切な状況が続いている。将来的な人口推移をみても今後人口が増えることはないためますます単独学校、単独部活での参加は厳しくなっている。合同部活での練習をする際にも湯田中、沢内中ともに距離があるため移動に関しても親の協力が必要不可欠ということも課題となっている。

西和賀町中学生人数推移

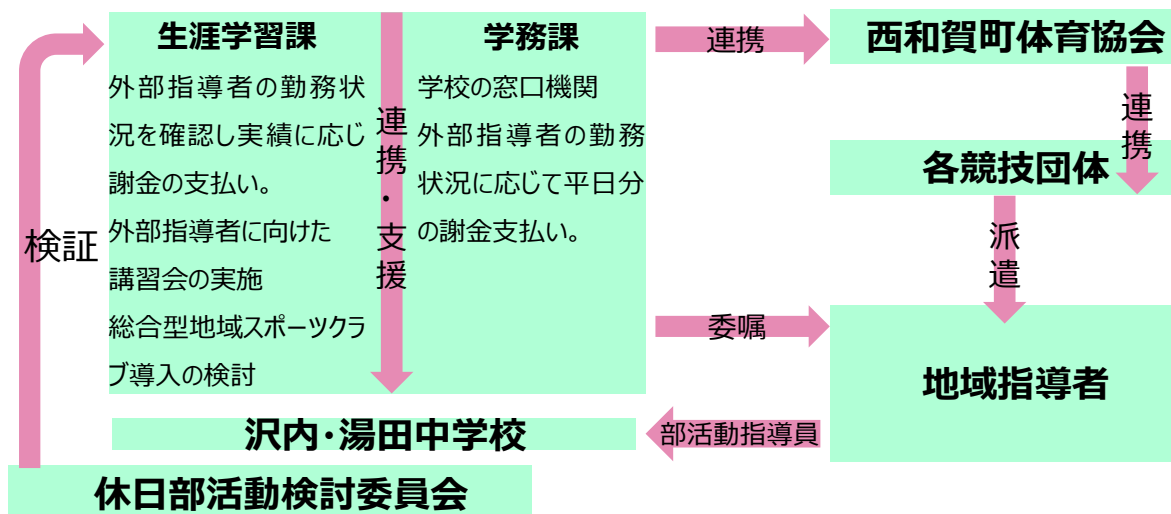
出典 西和賀町民課



2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）※イメージ図



▼行政組織内での役割分担

- **生涯学習課**
外部指導者の勤務状況を確認し実績に応じ謝金の支払い
外部指導者に向けた講習会の実施
総合型地域スポーツクラブ導入の検討
- **学務課**
学校の窓口機能
外部指導者の勤務状況に応じて平日分の謝金支払い

年間の事業スケジュール

- 4月 町内中学校 地域移行実施に係る打合せ
- 5月 西和賀町スポーツ少年団総会にて実施についての説明
町内中学校 部活動地域移行実施に係る打合せ
- 7月 西和賀町体育協会評議会にて実施についての説明
- 9月 総合型地域スポーツクラブ先進地視察
部活動地域移行事業研修会（適切な指導について）
第1回西和賀町休日部活動検討委員会の実施
- 12月 西和賀町スポーツ体制整備研修会
（総合型スポーツクラブについて、冬期間のウォーミングアップについて）
総合型スポーツクラブ運営研修会
- 1月 部活動地域移行説明会に参加。

- 1月 町内中学校1・2年生、保護者にアンケート調査を実施。
- 2月 アンケート調査まとめ。実証事業の完了報告作成。

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

拠点校数	2校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	野球・男子ソフトテニス・女子バレー・女子卓球・女子ソフトボール・柔道・バドミントン
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	8部活		

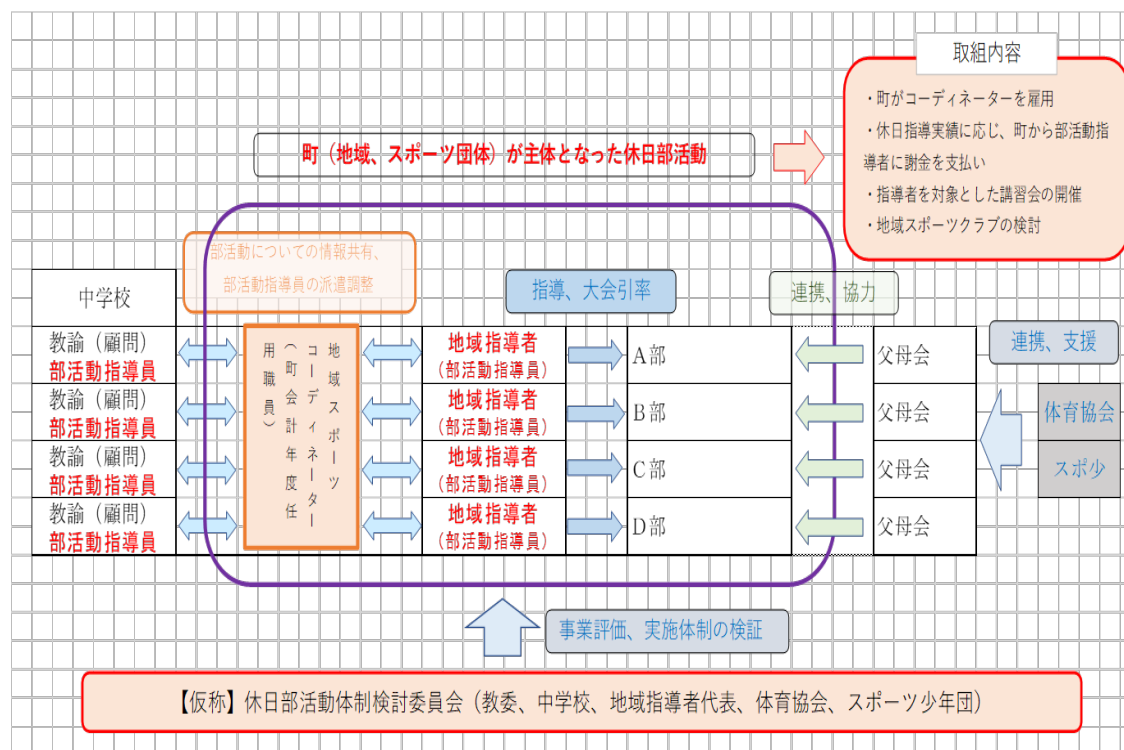
主な取組例

▼活動概要

拠点校名	湯田中学校 沢内中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	8部活
地域クラブ活動で実施した種目	野球・男子ソフトテニス・女子バレー・女子卓球・女子ソフトボール・柔道・バドミントン
運営主体名	湯田スポーツクラブ 沢内スポーツクラブ
運営類型	市町村運営型（地域団体・人材活用型）
1か月あたりの平均的な活動回数	各種目：月4回程度
指導者の主な属性	部活動指導員
活動場所	各中学校施設・町内運動施設
主な移動手段	保護者による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	無料
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）

※イメージ図



【仮称】休日部活動体制検討委員会（教委、中学校、地域指導者代表、体育協会、スポーツ少年団）

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

総合型地域スポーツクラブの設立を目指し情報収集

地域のスポーツ団体に向けた総合型地域スポーツクラブの設立に向けた研修。

休日部活動体制検討委員会の設立

取組の成果

岩手県総合型スポーツクラブ運営研修会への参加。（年2回）

岩手県体育協会による先進地視察に同行。

（山形県大蔵村・鮭川村・戸沢村）

休日部活動体制検討委員会を設立、開催。情報交換を行う。



先進地視察の様子。（山形県大蔵村）

特に工夫した事項

岩手県体育協会の総合型スポーツクラブの担当者から同規模町村の総合型スポーツクラブの視察、部活動地域移行の実施について視察の提案があった。視察先の事例をスポーツ団体に向けた研修で発表いただいたことで、西和賀町でも同じようなことができるのではないかと実感を持った研修を実施することができた。また、今回の地域移行が地域のスポーツ環境にどうかかわってる来るか、地域のスポーツを盛り上げる最適なタイミングだということを岩手大学教授の浅沼道成先生に講演いただいたことで、総合型地域スポーツクラブ導入に向けたきっかけづくりを行えた。



西和賀町スポーツ推進体制基盤整備研修の様子。

今後の課題と対応方針

総合型地域スポーツクラブの設立に向けて設立準備委員会を設置することで、地域のスポーツを一手に担う団体の育成を図る。また、総合型地域スポーツクラブがあることで部活動地域移行の受け皿として機能することにより生徒、保護者、学校、指導者、地域にとっても良い効果をもたせることが期待できる。設立準備委員会で活動を実施していくことで、地域の中で知名度を上げていければと感じている。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

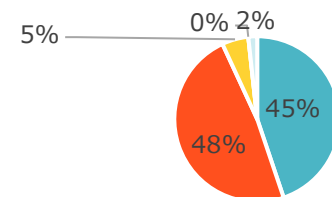
取組事項

外部指導者として部活動の指導に当たっていただいた方を部活動指導員として配置を行った。
また、年2回の研修を実施し指導内容の質の向上に努めている。

取組の成果

町内中学校1・2年生58名を対象にアンケート調査を行った。
休日部活動の活動内容はおよそ93%が活動内容が充実していると回答している。また、活動時間についても83%が十分な活動時間になっていると回答していることから指導内容、時間については一定の評価を得られていると感じている。

活動内容は充実していますか



■ おおいに充実している ■ 充実している ■ どちらともいえない ■ 充実していない ■ 無回答

中学生58名を対象としたアンケート

特に工夫した事項

年2回の指導者向け講習会を実施。1回目はスポーツインテグリティに関する講習、2回目は冬季のトレーニングについての講習を実施した。また、西和賀町には総合型地域スポーツクラブがないことから休日部活動地域移行の受け皿となる団体が現在ないということから西和賀町スポーツ推進体制基盤整備研修と称し、外部指導者だけでなく、体協関係者、スポ少関係者、スポーツ推進委員、各部活動保護者会長を対象にスポーツ推進基盤の整備についても研修を行った。



西和賀町スポーツ推進体制基盤整備研修の様子。

今後の課題と対応方針

指導者、ボランティアの確保を継続し、安定的なクラブ活動を行えるように体制を整える。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

実証事業の際は、参加費は無料としており、保険料も町で対応した。

取組の 成果

参加者だけではなく、指導者に関しても保険を掛けることで、安心してクラブ活動へ参加することができている。

今後の 課題と 対応方針

参加費を導入するにあたり適切な金額の設定。就学援助世帯に対する支援について。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

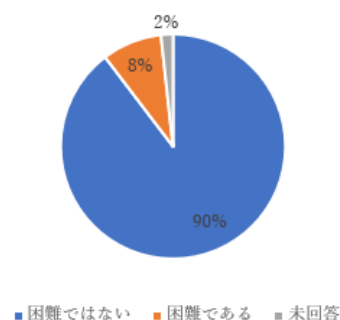
西和賀町中学校アンケート調査結果

生徒 58名

1 あなたは、休日に行われる地域部活動に参加することが困難である状況ですか？

困難ではない 52 困難である 5 未回答 1

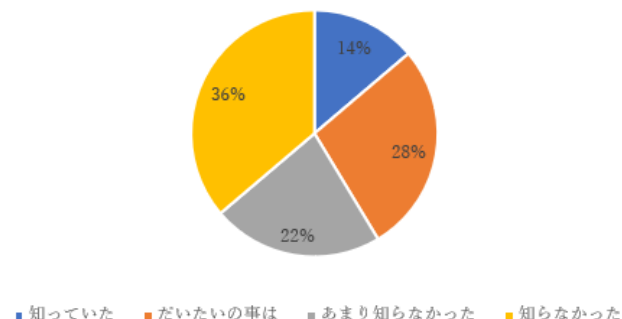
地域部活動への参加



2 あなたはこれまでの学校顧問との「休日の部活動」と現在西和賀町で実施している休日部活動の違いについて知っていましたか？

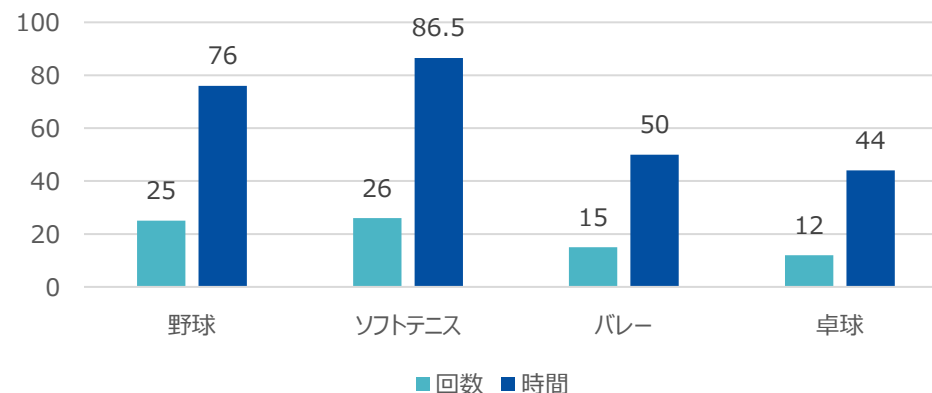
知っていた 8 大体のことは知っていた 16 あまり知らなかった 13 知らなかった 21

休日部活動の違いについて



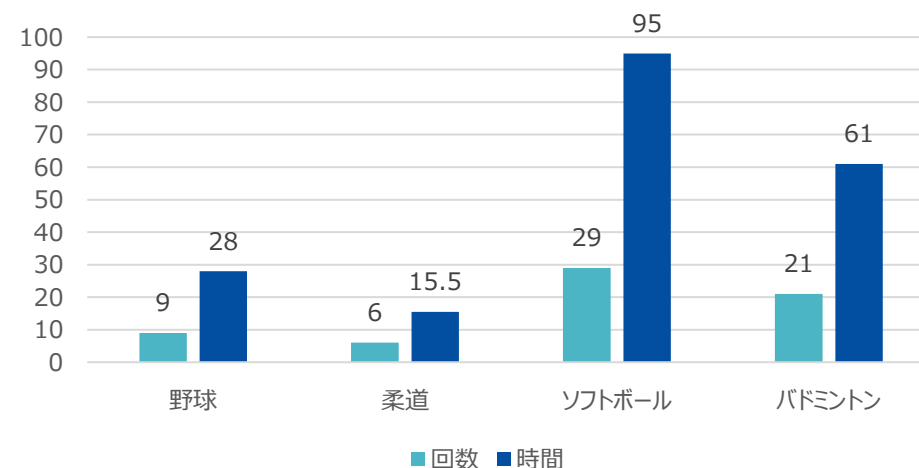
町内中学生1・2年生を対象としたアンケート

湯田中学校休日クラブ活動



湯田中学校 休日クラブ活動回数・時間

沢内中学校休日クラブ活動



沢内中学校 休日クラブ活動回数・時間

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



地域クラブ活動練習風景



地域クラブ活動練習風景



西和賀町スポーツ体制基盤体制研修会

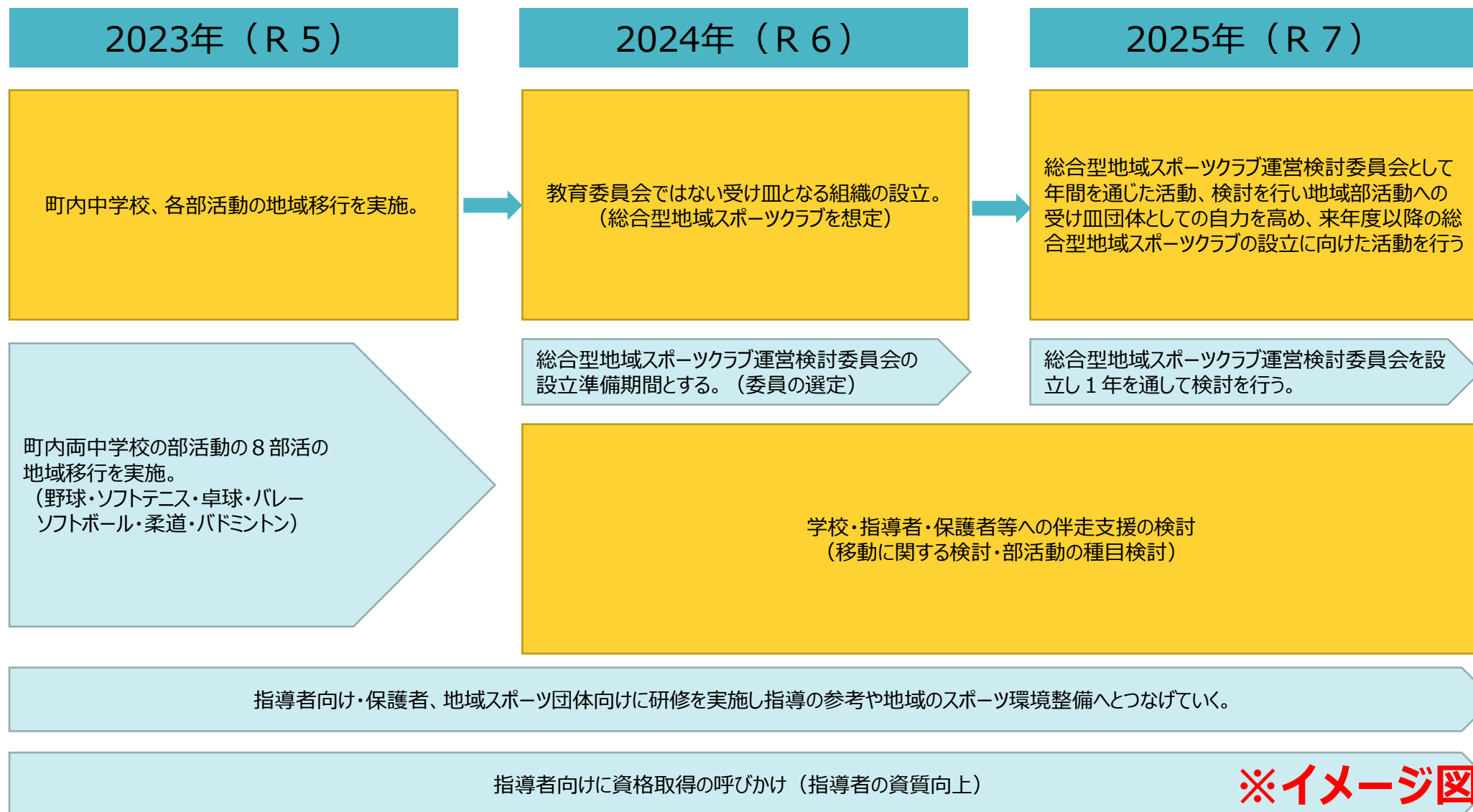


休日部活動検討委員会

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

西和賀町教育委員会部活動 改革スケジュール



※イメージ図

**【岩手県九戸村】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	岩手県九戸村
担当課名	九戸村教育委員会
電話番号	0195-42-2111

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	5,158人	部活動数	7部活
公立中学校数	1校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	118人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

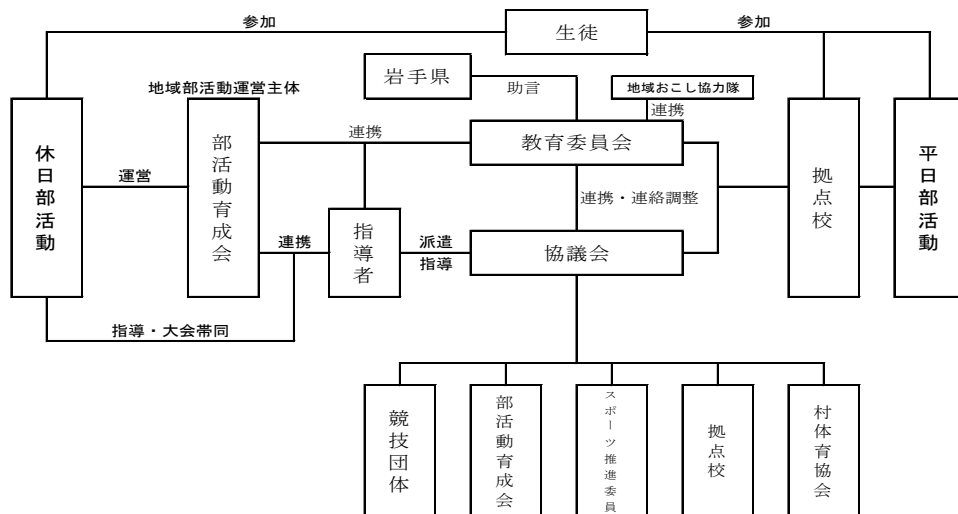
当村の現状は学校部活動のほか、部活動に在籍する生徒の保護者で構成する組織「部活動育成会」があり、学校部活動以外の練習及び大会等の遠征（平日、休日含み）などの実施に協力を頂いている。部活動育成会では「指導者への打診」「練習の見守り」「遠征時の送迎」「消耗品の手配」「保険の適用」など、多種多様な形で生徒たちの活動を支えているが、費用面の負担や、指導者の代替わりの際の後任探しに苦慮している状況である。

部活動の段階的な地域移行に向けて、保護者・拠点校・教育委員会・競技団体等関係者による課題意識及び目指すべき姿の共有を図らなければならない。また、地域移行を進める際には、先に述べた費用的な部分の課題も解消しなければならないほか、将来的には他市町村との連携も視野に入れていかなければならないと考えている（当面の間は当村の地理的条件から、単独での地域移行を实践予定）。

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（九戸村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会（教育総務係、生涯学習係）

部活動地域移行検討会議の開催、拠点校と部活動育成会（地域クラブ活動の運営主体）との連絡調整、指導者謝金の支払い、地域スポーツ教室及び研修会開催に係る各種事務手続きなど。

● 首長部局（今年度は協働体制無し）

地域おこし協力隊を所管する「IJU戦略室」と協働し、地域おこし協力隊の活用を検討していきたい。

年間の事業スケジュール

時期	計画事項
10月	第1回協議会の開催（現状と将来の課題点、今後の方向性についての整理・共有、役割分担等） 関係者との意見交換会実施 地域クラブ活動開始
12月	第1回～第4回地域スポーツ教室実施
1月	地域指導者向け研修会①の実施 地域クラブ活動終了
2月	地域指導者向け研修会②の実施 拠点校・保護者等へのアンケート調査実施
3月	事業完了報告書・成果報告書等の作成 第2回協議会（成果報告・収支決算・来年度以降に向けた課題整理）

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

拠点校数	1 校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	女子バレーボール、男子バレーボール、女子バスケットボール、卓球、ソフトテニス
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	5 部活		

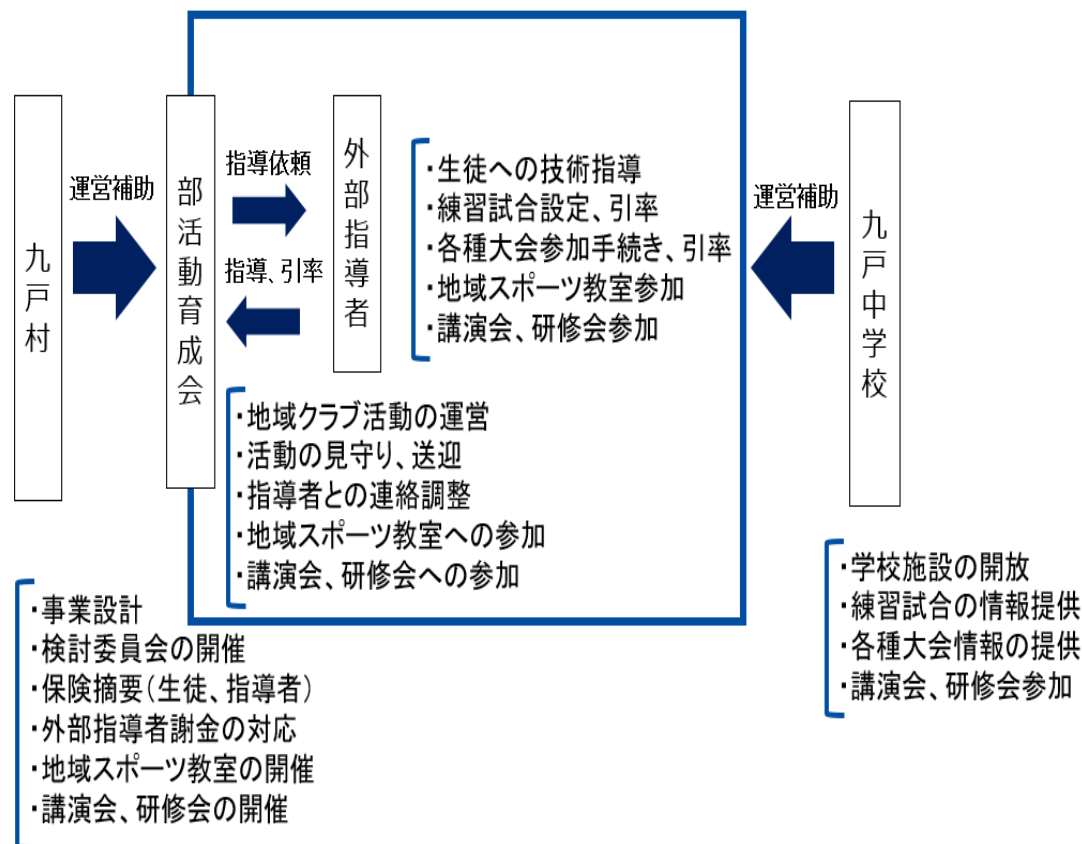
主な取組例

▼活動概要

拠点校名	九戸村立九戸中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	5 部活
地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール、バスケットボール、卓球、ソフトテニス
運営主体名	部活動育成会
運営類型	市町村運営型（地域団体・人材活用型）
1 か月あたりの平均的な活動回数	女子バレーボール：月 2 回程度 男子バレーボール：月 2 回程度 女子バスケットボール：月 1 回程度 卓球：月 5 回程度 ソフトテニス：月 1 回程度
指導者の主な属性	地域指導者
活動場所	九戸中学校体育館、村内小学校体育館
主な移動手段	自家用車（部活動育成会）
1 人あたりの参加会費等（年額）	女子バレーボール：0円 男子バレーボール：0円 女子バスケットボール：0円 卓球：0円 ソフトテニス：0円
1 人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒 1 人あたり：800円/年 指導者 1 人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）

【運勢体制図】



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

教育委員会、村内の競技団体、スポーツ推進委員等を構成員とする「九戸村地域スポーツ振興協議会（仮称）」を設立し、各関係者との連絡調整・指導助言など、主体的に地域クラブ活動の実施に取り組む。

取組の成果

部活動育成会、指導者、体育協会、各競技種目の協会、拠点校、教育委員会で構成する「九戸村部活動地域移行準備検討委員会」を発足し、部活動地域移行のための課題や今後の方針について意見のすり合わせを行った。

各団体がこれまで行ってきた取り組みや、施設整備面での村への要望の他、市町村合同部活動に対する施設利用上の不利益などを実体験を基に情報共有できた。

また、当面は単独での地域移行を実践するが、将来的には他市町村との連携も視野に入れていかなければならないと考えている。

特に工夫した事項

部活動育成会へ運営日誌への記録を依頼し、活動の実態を確認するほか、部活動育成会の年間を通してのランニングコストについて情報提供をいただき、地域移行の進展に向けた予算の洗い出しを行った。

今後の課題と対応方針

当面の間、地域クラブ活動の運営はこれまで同様に「部活動育成会」と「指導者」が受け持つこととなるが、顧問がこれまで携わってきた「学校施設利用予約日程の調整」「練習試合、大会等の調整」なども両者に任せるのは負担が大きい（自身の家庭、生業への影響も考慮）。

今後もその二点については学校からの協力を頂きながら、新たに「コーディネーター」を雇用し、ノウハウや人脈などを引き継ぐ必要がある。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

地域スポーツ振興協議会が、各部活動に対して競技指導者の選定・派遣を行う。また、指導スキル向上に向けた研修等を実施する。

取組の成果

当初計画では「地域スポーツ振興協議会」が、各クラブ活動に対して競技指導者の選定・派遣を行う予定だったが、「地域スポーツ振興協議会」の立ち上げまでは至らなかった。また、当初想定していた村体育協会傘下の各競技団体の人員不足もあり、競技指導者の選定・派遣は実施出来なかった。

指導スキル向上に向けた研修は実施済み（詳細は「取組項目名：オ：内容の充実」に記載）。

特に工夫した事項

当初の想定では各競技団体をそのまま競技別の人材バンクとする予定だった。

また、協会からの派遣指導者についても「技術力向上」と「競技に触れ、楽しむ機会」それぞれの役割を設定し、地域クラブ活動への派遣や村主催の運動教室への派遣を行い、競技人口の増を狙った。

今後の課題と対応方針

今後は各競技団体に限定せず、村内または管内などの「競技経験はあるが指導は未経験」といった人材を広く募り、人材バンクを整備する。集まった人材に対して「指導スキルの獲得、向上のための研修」を定期的実施し、指導者を派遣できる体制を整える。

また、各競技団体と集まった競技経験者を繋ぐことで、各競技団体の人員増を図り、村体育協会の組織力強化を図りたい。更には、競技経験者自身が指導者としてのみではなく、プレイヤーとしても活躍できる場を創り、生涯スポーツの振興を図りたい。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

各競技団体、部活動育成会、スポーツ推進委員と指導者の選定・派遣・要請について連携する。また、必要に応じて地域おこし協力隊とも連携し、指導者の確保等を行う。

取組の成果

指導者の選定、派遣共に、当村におけるスポーツ推進委員は各競技団体からの差出人員が多く担っていることから、人員不足のため実施できなかった。

また、地域おこし協力隊の中でも該当する競技の経験者はいないため、指導者の新規確保は出来なかった。

指導者の要請については、今年度は当初段階で既に部活動育成会が指導者を依頼済みであること、また、追加の指導者も数名いたが、部活動育成会が以前から築いていた人脈によるもののため「九戸村部活動地域移行準備検討委員会」への要請はなく、未実施となる。

特に工夫した事項

「運動部の地域移行」の趣旨とは違うが「地域おこし協力隊」の中には「楽器演奏」「ICT技術」等に秀でたものがいたため「文化部の地域移行」の準備のための人材バンクの作成を行った。

また、スポーツ推進委員は「スポーツの振興」を目的に各競技団体から人員が集まっていることもあってか、一つの競技に偏ることを避け、競技未経験者でもスポーツに親しむ機会となるよう「ニュースポーツ」に力を入れている。ニュースポーツは「文化部の生徒」も「運動部の生徒」も一律にゼロから始める競技が多い為、スポーツに触れ、親しむ機会となることを期待している。

今後のスポーツ推進委員の役割としては「ニュースポーツに特化し、企画運営を担う」ことをお願いしたい。

今後の課題と対応方針

指導者の負担軽減及び後継者不足を解消するために、引き続き人材バンクの整備を進める。

その傍らでスポーツのみならず文化活動の経験についても聞き取りを行い「文化部の地域移行」にも繋げたい。

また、今回の実証事業を行う中で見えてきた各団体の強みを活かした役割を設定し、来年度以降の活動に備えたい。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：エ：面的・広域的な取り組み

取組事項

九戸中学校における部活動の全てについて、休日の部活動地域移行の取り組みを行う。

取組の成果

「休日のクラブ活動（地域の受皿での活動）」としては認められない案件が多数あったため、当初予定していた7部活動すべての地域移行は実現できず、最終的には5つの部活動の一部期間のみが地域移行の対象となった。

これは熱意のある顧問が休日の部活動に参加したことから、地域移行と見なされないため、地域移行の実績としては除外となったが、兼業体制の整備さえ行えば「休日のクラブ活動」として認められる案件である。

準備検討委員会事務局の認識誤り及び兼職兼業体制の整備が間に合わないことから発生した事案であった。

特に工夫した事項

当村では、生徒の保護者で構成される「部活動育成会」という組織があり、生徒がクラブ活動を行う上での受皿として既に活動している。

今年度の取組は例年、部活動育成会から依頼している各競技の指導者へと技術指導に対する対価と休日の練習時と遠征などで顧問に代わり生徒の引率を行うことにより生じる責任に対する対価をお支払いすることで、指導者の後継者不足解消の第一手とした。

今後の課題と対応方針

地域としては部活動に積極的な教職員が居ることを改めて認識することができた。

また、拠点校の教職員のみならず、地元出身の他校に努めている教職員や地方公共団体職員などの指導者が多数いることから、改めて兼業体制を整理することで、次年度は指導に対する対価をお支払いし、引き続き責任を持って生徒の指導、引率に努めて頂けるよう環境を整備する。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

指導者のスキル向上の取り組みを推進し、技術指導のレベルアップを図る。

取組の 成果

指導者としての心構えや選手とのコミュニケーション方法などといった、競技種目に限定しない「指導方法（教育理論）」を学ぶための研修会を実施した。

また、技術指導についても地域移行対象の全競技の実施は出来なかったが、村に競技団体の無い「ソフトテニス」に注力した「ソフトテニス教室」を実施。部活動指導者の参加も依頼し、実践を交えた技術指導方法の習得にも繋がった。

特に 工夫した 事項

「指導方法（教育理論）」の研修会では、現在の部活動指導者のみならず、指導者の潜在候補者たる関係団体からも参加者を募り、研修を実施した。また、研修の中で他市町村の例などを交えた「地域移行の実情」を内容に盛り込み、参加者の部活動地域移行に向けた意識醸成を図った。

また、「技術指導」も含めた「ソフトテニス教室」では、新たな指導者人材発掘及び競技人口の拡大を目的に参加対象を広く「村民」とし、募集した。結果、拠点校のソフトテニス部所属の生徒と指導者のほか、小学生3名と成人男性1名が参加することとなり、僅かではあるが競技人口の拡大に寄与した。

今後の 課題と 対応方針

競技別の「技術指導」については、今後は部活動育成会や村内の競技団体の意向を反映させた内容の研修会を実施したい。

全競技に共通する「指導方法（教育理論）」については現在の指導者の意向を反映させた内容の研修会を実施すると共に、対象を現在の指導者の他、人材バンク登録者も対象とし、指導者候補生を増やしたい。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

各部活動育成会から指導者に対して支払う謝礼・旅費、及び休日の大会・練習試合等の活動費として、村から活動補助金を交付。また、本格的な地域移行に向けて保護者負担費用の検討を行う。

取組の成果

当初予定していた部活動育成会への補助金交付は、実証事業にそぐわないことから、指導者への謝礼の支払いを地域クラブ活動として認められた「女子バレーボール」「男子バレーボール」「女子バスケットボール」「卓球」「ソフトテニス」以上5つの部活動で実施。
また、保護者負担費用の検討については、部活動育成会から年間を通して必要となる費用について、情報収集及び集計を行っている途中である。

特に工夫した事項

練習試合や大会等での指導は、移動時、休憩時を問わず指導が行われることから実指導時間の算定が困難であるため、今年度は活動場所の区分を二つ設定し、それぞれの謝礼上限額を設定した。謝礼上限額の設定内容は「管内 4 時間」「管外 6 時間」というもの。
来年度以降は、内容を見直し、より実態に即した謝礼の支払いが出来るよう努めたい。

今後の課題と対応方針

来年度は部活動育成会への補助金交付を実現し、実態に即した無駄のない活動への補助を実現したい。
その為に、補助金支払いの対象となる経費の設定や、部活動育成会から情報収集を行っている、年間を通して必要となる費用を反映させた補助交付額を設定したい。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

学校の設備・備品の使用等について、クリアすべき課題点の検討とルール策定を行う。

取組の成果

現状では部活動毎に決められた曜日、時間で活動を行っているため、特に支障はない。

ただし、本格的に地域クラブ活動を開始した際は、体育館の利用予約に影響が出ることが予想される。基本的には上記のとおり曜日、時間ごとに利用団体を決めることで問題無いが、突発的な利用申請（練習試合等）が入った際の利用団体及び学校行事との調整に難しい（これまでは顧問の教職員の間で調整していた）。

また、競技の規定変更等（バレーでいうネットの高さなど）が生じた際の設備改修、備品購入などの費用負担元をどのようにするかが課題として挙げられた。

特に工夫した事項

実証事業開始前から行われている取組ではあるが、拠点校体育館の利用が出来ない場合は小学校体育館を借用し、活動を行っている。また、その際には地区のスポ少との合同練習を行うこともあり、部活動育成会に所属する指導者の負担軽減にも繋がっている。

今後の課題と対応方針

体育館の施設利用スケジュールは部活動地域移行準備検討委員会を最低年4回は開催し、会議の場で各地域クラブの三カ月先の利用希望を取りまとめ、団体間及び学校との調整を行う。

設備改修、備品購入についても会議の場で各地域クラブから提案をいただく。いただいた提案を基に、教育委員会で財源を確認し、より効果的で実態に即した予算化を行う。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ク：その他の取組

取組事項

部活動に所属していない生徒や文化系部活動の生徒を中心に、多様なスポーツに触れる機会の提供を行う。

取組の成果

地域スポーツ教室「ソフトテニス教室」を全4回開催した。

当初の予定では「部活動に所属していない生徒と文科系部活動の生徒を中心」としていたが、募集方法を「拠点校中学生」と「村民」としたところ、当初予定していた生徒の参加は無かったが、拠点校のソフトテニス部所属の生徒と指導者のほか、小学生3名と成人男性1名が参加することとなった。

特に工夫した事項

上記のとおり、参加対象を拡大し募集したことで、スポーツに触れる機会を広く提供できた。また、村内に競技団体のない「ソフトテニス」に注力したことで、僅かではあるが競技人口の拡大に繋がった。

また、ソフトテニス部の指導者も参加したことで、初心者から経験者までを対象とした、技術指導方法を学ぶ機会にもなった。

今後の課題と対応方針

「オ：内容の充実」とも共通するが、今後は地域クラブ活動で実施している各競技の体験及び競技力向上の機会として「スポーツ教室」を開催したい。開催に際しての講師選定及び内容については可能な限り部活動育成会や村内の競技団体の意向を反映させた内容で実施し、併せて指導者も対象とした「技術指導」の研修機会にもしたい。

また、その他の多様なスポーツに触れる機会は村のスポーツ推進委員に依頼し「ニュースポーツ体験教室」を実施したい。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

地域スポーツ教室 ～ ソフトテニス教室 ～ を開催します！！

総合型地域スポーツクラブ「カシオペア水泳スポーツクラブ」から講師をお招きし、4日間に分けて教室を開催します。

参加者は小学生以上を対象に、経験者、未経験者問わずどなたでもお気軽に参加出来ます。ソフトテニスにご興味をお持ちの方、運動不足にお悩みの方、皆様お問い合わせの上、ぜひご参加ください。

《開催内容、申し込み方法等》

教室の内容：①トレーニングメニュー ②ソフトテニスに係る技術指導

開催日：令和5年12月3日（日）、12月9日（土）、12月10日（日）、12月16日（土）全4回

開催時間：午前9時00分～正午まで（全日共通）

※受付と諸連絡を行いますので、午前8時45分までにご来場願います。

場 所：二戸市総合スポーツセンター

持 ち 物：中ズック、動きやすい服装、飲み物、タオル、ラケット（貸出あります）

参 加 費：無料

申し込み：公民館へ申込用紙の持参・電話・FAX・メール（申込締め切り：11月27日（月））

そ の 他：①会場へのご移動は恐れ入りますが、各自をお願いいたします。

②参加者にはスポーツ安全保険を掛けてさせていただきます。保険を掛ける際の必要事項となります。

申込用紙への生年月日のご記入 をお忘れなき様、お願いいたします。

【お問い合わせ・申込先担当】
九戸村教育委員会 斉藤
九戸村大字伊保内 10-1-6
TEL：0195-42-2111（内線305）
FAX：0195-41-1010
Email：saoitou@vil.kunohs.iwate.jp

※一家族で複数のご参加をご希望の際は、恐れ入りますが空いている箇所へご記入願います。

参加希望日（希望する日に「○」をご記入下さい）			
12/3 ・ 12/9 ・ 12/10 ・ 12/16			
（ふりがな）	住 所	広報、HPなどへの	
氏 名		写真掲載	
生年月日（西暦）	年 月 日	電 話	可 ・ 否

【ソフトテニス教室チラシ】

令和5年度 第一回 部活動地域移行に係る講演会
（兼、指導者向け研修会）アンケート

今後の部活動地域移行の参考とさせていただきますので、お忙しいところ恐縮ですが、アンケートにご協力をお願いいたします。

お 名 前： XXXXXXXXXX
所 属 団 体： XXXXXXXXXX
※所属団体は無ければ未記入で大丈夫です。

※選択肢がある項目は、当てはまるもの一つ選択し、○で囲んでください。

○これまで学校が担ってきた部活動を地域の人材が担うことによって、地域が主体となって部活動を支える取り組みが進められていることをご存じでしたか？

① 知っていた
② 知らなかった

○講演会は参考になりましたか？

① 有意義だった
② ある程度有意義だった
③ あまり有意義ではなかった
④ 有意義ではなかった

○講演会の内容は、普段の活動に活かそうですか？

① 活かそう
② ある程度活かそう
③ あまり活かさない
④ 活かさない

○部活動地域移行後の地域クラブ活動はどんな活動の場であってほしいですか？（複数選択可）

① 大会等で良い成績を収められるような活動の場（専門的な指導による技術・体力の向上等）
② 大会等での成績にはこだわらず、競技を楽しむ場
③ 一つの競技に限らず、様々な競技等を体験できる場
④ 仲間と楽しく活動する場（レクリエーション的な活動）

○今後開催する講演会の内容で希望するものがあれば、ご記入願います。

【記入欄】
アスレチック・トレーニング
食事指導・身体づくりの大切さ

○その他、ご意見やご要望等がございましたら、ご記入願います。

【記入欄】
先生の教訓→家庭崩壊 ということが胸に刻み込まれた。
先生が 幸せに部こまが 出来れば いいなあと 思いました。
先生の 負担は 減らさねば ならぬ けれど、やはり 先生は 部活動に 必要 だと思います。

アンケートは以上で終了となります。ご協力いただき、ありがとうございました。

【地域移行講演会第一回、二回アンケート用紙】

令和5年度 第二回 部活動地域移行に係る講演会
（兼、指導者向け研修会）アンケート

今後の部活動地域移行の参考とさせていただきますので、お忙しいところ恐縮ですが、アンケートにご協力をお願いいたします。

お 名 前： XXXXXXXXXX
所 属 団 体： XXXXXXXXXX
※所属団体は無ければ未記入で大丈夫です。

※選択肢がある項目は、当てはまるもの一つ選択し、○で囲んでください。

○講演会は参考になりましたか？

① 有意義だった
② ある程度有意義だった
③ あまり有意義ではなかった
④ 有意義ではなかった

○講演会の内容は、普段の活動に活かそうですか？

① 活かそう
② ある程度活かそう
③ あまり活かさない
④ 活かさない

○部活動の地域移行に向けて、解決すべき大きな課題は何だと考えますか？（三つまで回答可能です）

1 生徒・保護者の理解
2 教職員の理解
3 保護者の費用負担
④ 受け皿となる団体等の整備
⑤ 指導者の確保
⑥ 活動場所の確保
7 学校との連携
8 中絶体などの大会のあり方の改革
9 トラブルが起こった場合の責任の所在
10 その他（ ）

○来年度以降に開催する講演会の内容で希望するものがあれば、ご記入願います。

【記入欄】
① 選手 指導者 両方とも

○その他、ご意見やご要望等がございましたら、ご記入願います。

【記入欄】
後日などをしめて 大会に勝つことが、生徒の 楽しさ、面白さ、やる気、地域による誇りを感じながら、目標をスポーツに定めるのは素晴らしいことだ。

アンケートは以上で終了となります。ご協力いただき、ありがとうございました。

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【休日クラブ活動の様子】



【部活動地域移行講演会（兼、指導者研修会）の様子】



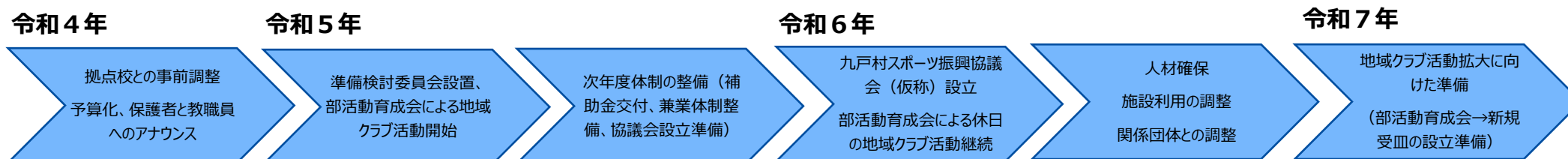
【地域スポーツ教室「ソフトテニス教室」の様子①】



【地域スポーツ教室「ソフトテニス教室」の様子②】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



拠点校と教育委員会の事前調整

● 拠点校校長から教育委員会へ部活動地域移行の実施を実案を基に相談を頂いた。

頂いた実案を基に、その時点で実現可能な内容を教育委員会から校長へ提案し、複数回の打合せを経て令和5年度から休日の部活動地域移行を実施することとなった。

令和4年度に当初予算化を行う予定であったが、財源不足のため一時見送りとなった。

財源不足を解消するために、「令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業」の実施を申請。採択されることとなった（予算化は令和5年度補正予算にて実施）。

保護者、教職員へのアナウンス

● 拠点校校長から保護者と教職員へ、令和5年度から部活動地域移行を実施する旨をPTA集会時や職員会議の際にアナウンスして頂いた。

現状では、既に部活動育成会の活動が「地域移行を実施済み」ともいえる状況でもあり、保護者、教職員の理解は充分にあったため、アナウンスした際の反対意見は特に無かった。

準備検討委員会設立

● 教育委員会と拠点校とで委員会の人選を行い、準備検討委員会を設立。

今年度は実証事業であること、今後の地域移行の動向についてお伝えすると共に、実証事業上必要な事務手続きのご案内を行った。

その際に聞こえた声として、長年部活動の指導に携わってきた指導者から、これまで自身が行ってきた活動の中で感じたことと、行政の対応が遅すぎる旨、ご指摘を頂いた。

実証事業開始～終了

● 部活動育成会が受皿となり実施している既存の活動を整えて「令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業」を実施。

当初予定していた7部活動中、実証事業の対象となったのは5部活動のみとなったが、その他の部活動もこれまでと同様に休日の地域クラブでの活動は実施出来ている。

令和6年度からは、次項に記載の「九戸村教育委員会 部活動改革スケジュール（案）」をベースに、今回の実証事業で確認した課題を解消したい。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

九戸村教育委員会 部活動改革スケジュール(案)

